

1. 科目名 (単位数)	社会福祉援助技術演習 (2単位)	池袋・名古屋		
2. 授業担当教員	【池袋】田代 幹康、田中 喜美子 【名古屋】伊東 真理子		3. 科目番号	SSMP5305
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	この演習では、通常、講師と院生との面接による授業方式を基本型として、事例研究、及び討論方式をもって学習する方法が取られる。しかし、通信教育課程においては、このような方式を取ることは不可能であり、各々の院生の自己学習ということに依存しなければならない。したがって、演習では社会福祉実践理論・技術に関する諸々課題について、自分自身で学習し、検証することが期待されている。特に、エコ・システム論を概念の枠組みとして、個人、家族、グループを対象とした対人援助過程の検証を行うことが必要である。さらに、院生は自分の興味ある特定の実践方法及び研究領域・課題の発見をするとともに、新しい実践理論・モデルの開発をする努力も期待されている。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例研究を通して理論と実践との連携を明確にする。</li> <li>2. 種々の実践理論・モデル（個人、家族、グループ）を理解する。</li> <li>3. 選択した二つの実践理論・モデル（例：Social constructivism, Psycho-social model等）の理論構造、過程（インターク、アセスメント、介入計画、介入、評価）の比較議論しながら学習をすすめる。</li> <li>4. 自分が選択した実践理論・モデルについてどのように実践の場で応用できるか考察する。</li> <li>5. 自分の選んだ研究課題と実践課題について論文を書き、講師の評価を受ける。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート 課題	授業時に提示する			
10. 教科書・参考書 ・教材	<p>基本的に自分で選んだ実践理論・モデルは自分で適当な出版物を探す必要がある。 下記のは参考文献の例である。</p> <p>【参考文献】</p> <p>平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子『社会福祉実践の新潮流・エコロジカル・システム・アプローチ』ミネルヴァ書房、1998年。</p> <p>平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2000年。</p> <p>田代幹康、シシリア・ロボス訳・著 『スウェーデン、ノーマライゼーションへの道』現代書館、2007年。</p> <p>田代幹康、C.ロボス 訳・著 『スウェーデン発、知的障害のある人の生活支援ハンドブック』ミネルヴァ書房 2011年。</p> <p>Shulman, L. (2016). <i>The skills of helping individuals, families, groups, and communities</i> (8<sup>th</sup> ed.). Belmont, CA: Brooks/Cole.</p> <p>Poulin, J. (2010). <i>Strengths-based generalist practice: A collaborative approach</i> (3rd ed.). Belmont, CA: Brooks/Cole.</p> <p>Lum, D. (Ed.). (2007). <i>Culturally competent practice: A framework for understanding diverse groups &amp; justice issues</i> (3<sup>rd</sup> ed.). Pacific Grove, CA: Brooks/Cole.</p> <p>DeJong, P., &amp; Berg, I. (2002). <i>Interviewing for solutions</i> (2<sup>nd</sup> ed.). Pacific Grove, CA: Brooks/Cole.</p> <p>Prochaska, J. O., DiClemente, C. C., &amp; Norcross, J. C. (1992). In search of how people change: Applications to addictive behaviors. <i>American Psychologist</i>, 47(9), pp.1102-1114.</p> <p>Walsh, J. (2003). <i>Endings in clinical practice: Effective closure in diverse settings</i>. Chicago: Lyceum Books, Inc.</p> <p>Reid, W., Denaley, B., &amp; Colvin, J. (2004). Do some interventions work better than others? A review of comparative social work experiments. <i>Social Work Research</i>, 28(2), pp.71-81.</p> <p>Mas-Expósito, L., Amador-Campos, J. A., Gómez-Benito, J., &amp; Lalucat-Jo, L. (2014). Depicting current case management models. <i>Journal of Social Work</i>, 14(2), pp.133-146.</p> <p>Day, A., Hardcastle, L., &amp; Birgden, A. (2012). Case management in community corrections: Current status and future directions. <i>Journal of Offender Rehabilitation</i>, 51, pp.484-495.</p> <p>Bentley, K. (2002). <i>Social work practice in mental health</i>. Pacific Cove, CA: Brooks/Cole. Chapter 2: "Social Workers as Crisis Counselors," pp.18-42.</p> <p>Walter Lorenz. (1994). <i>Social Work in a Changing Europe</i>. Routledge.</p> <p>Robert k. Yen(1994). <i>Case Study Research. Design and Methods</i>. Second edition. SAGE publishing Ltd.</p> <p>Nigel Gilbert. Eds (1993). <i>Researching Social Life</i>. SAGE publishing Ltd.</p> <p>Gosta Esping Andersen.Eds. (1996). <i>Welfare States in Transition</i>. SAGE publishing Ltd.</p> <p>Sheafor, B.W, Horejsi, C.R. &amp; Horejsi, G.A. (2003). <i>Techniques and Guidelines for Social Work Practice</i>. New York: Allyn &amp; Bacon.</p> <p>Roberts, Albert R. &amp; Yeager, Kenneth R. (Eds.) <i>Evidence-Based Practice Manual</i> (2004) Oxford University Press.</p> <p>Corcoran, Jacqueline (2003). <i>Clinical Applications of Evidence-Based Family Interventions</i>, Oxford University Press.</p>			
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>事例を通じて各理論を理解し実践の場で応用できるようになる。</p> <p>自分の研究テーマと実践理論について論文が書けるようになる。</p> <p>○評定の方法</p>			

	授業中の発表・積極的参加、小論文の構成、内容、質の評価などを行なう。
12. 受講生へのメッセージ	演習は、院生の積極性・自主性が要求される。自分の学習日程を作成し、日程にそって学習を進める必要がある。最初に、社会福祉実践理論・モデルの概要を知る必要がある。そのために、実践理論・モデルに関する文献を広く熟読し理解すること。その後で、自分が深く探求したい実践領域の実践方法論を決める。例えば、個人を対象とした実践（介入）方法か、家族全体を対象としたものか、グループを対象としたものか選ぶとよい。その後で、選択した実践方法論を重点的に熟読し、理解を深める。この際、アサインメントとして要求されている事柄に留意し、文献調査を行うことを勧める。
13. オフィスアワー	授業を分担する各教員により連絡する。
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1. テーマ	オリエンテーション、事例研究1（ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践と援助関係）（田中）（伊東）
【学習の目標】	ソーシャルワーク実践倫理、ストレングス視点からのジェネラリスト・ソーシャルワークと協働関係としての援助関係の概念を習得し、活用する。
【学習の内容】	ソーシャルワーク実践倫理、ストレングス視点からのジェネラリスト・ソーシャルワークと協働関係としての援助関係の概念を、事例を通して習得・活用する。
【キーワード】	倫理綱領、ストレングス視点、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、援助関係、協働
【学習の課題】	ソーシャルワーク実践倫理、ストレングス視点からのジェネラリスト・ソーシャルワークと協働関係としての援助関係の概念を用いて事例を分析し発表し、全体でディスカッションする。
【参考文献】	資料・事例を配布する。
【学習する上での留意点】	各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。
2. テーマ	事例研究2（実践のスキルの習得、利用者とのラポール形成・契約、アセスメント・目標設定）（田中）（伊東）
【学習の目標】	ソーシャルワーク実践のスキルの基盤である、利用者とのラポール形成及び契約、アセスメント及び目標の設定の概念を習得し、活用する。
【学習の内容】	ソーシャルワーク実践のスキルの基盤である、利用者とのラポール形成及び契約、アセスメント及び目標の設定の概念を、事例を通して習得・活用する。
【キーワード】	ソーシャルワーク実践のスキル、ラポール、契約、アセスメント、目標設定
【学習の課題】	ソーシャルワーク実践のスキルの基盤である、利用者とのラポール形成及び契約、アセスメント及び目標の設定の概念を用いて、事例を分析・発表・ディスカッションをする。
【参考文献】	資料・事例を配布する。
【学習する上での留意点】	担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。
3. テーマ	事例研究3（ケースマネジメント、Evidence-Based Practice (EBP)、トラウマ及び危機介入）（田中）（伊東）
【学習の目標】	ケースマネジメント、EBP、トラウマ及び危機介入の概念を習得する。
【学習の内容】	EBPとしてのトラウマ及び危機介入モデルに基づいたケースマネジメントの概念を、事例を通して習得・活用する。
【キーワード】	ケースマネジメント、Evidence-Based Practice (EBP)、トラウマ及び危機介入
【学習の課題】	EBPとしてのトラウマ及び危機介入モデルに基づいたケースマネジメントの事例の分析・発表・ディスカッション。
【参考文献】	資料・事例を配布する。
【学習する上での留意点】	担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。
4. テーマ	事例研究4（多様性への対応と多様な利用者層への援助モデル）（田中）（伊東）
【学習の目標】	多様性に対応できるスキルの習得し活用する。多様な利用者層への援助モデルを理解し活用する。
【学習の内容】	多様性に関わる問題、特に、貧困、LGBT、異文化問題に対応するスキルを要する利用者への援助モデルに使った事例を分析することにより多様性のスキルを習得・活用する。
【キーワード】	多様性問題介入
【学習の課題】	貧困、LGBT、異文化問題に対応するスキルを要する利用者への援助モデルを活用した事例の分析・発表・ディスカッション。
【参考文献】	資料・事例を配布する。
【学習する上での留意点】	担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。
5. テーマ	事例研究5（家族アセスメント・ラポール形成）（田中）（伊東）
【学習の目標】	家族アセスメント、ラポール形成の概念の習得し活用する。
【学習の内容】	家族アセスメント、ラポール形成に関する概念を、事例分析を通して習得・活用する。
【キーワード】	家族アセスメント、家族とのラポール形成
【学習の課題】	家族アセスメント、ラポール形成に関する概念を事例分析・発表・ディスカッション。
【参考文献】	資料・事例を配布する。
【学習する上での留意点】	担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。
6. テーマ	事例研究6（解決志向の問題解決、変容への援助、協働のスキル）（田中）（伊東）
【学習の目標】	解決志向の問題解決、変容への援助、協働の概念を習得し、活用する。
【学習の内容】	解決志向の問題解決、変容への援助、協働の概念を、事例分析を通して習得し、活用する。
【キーワード】	問題解決、解決志向・フォーカス、変容への援助、協働
【学習の課題】	解決志向の問題解決、変容への援助、協働のスキルに関する事例分析・発表・ディスカッション。

	<p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
7. テーマ	事例研究7 (援助の終結) (田中) (伊東)
	<p>【学習の目標】 援助の終結 (中止・完了) に要するスキルを習得し、活用する。</p> <p>【学習の内容】 援助の終結に要するスキルを、事例分析を通して習得・活用する。</p> <p>【キーワード】 援助の終結 (中止・完了) のスキル</p> <p>【学習の課題】 援助の終結場面の事例分析・発表・ディスカッション。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
8. テーマ	課題 (事例研究) 発表・ディスカッション(田中) (伊東)
	<p>【学習の目標】 事例研究論文の書き方の習得と口頭発表のスキルを習得する。</p> <p>【学習の内容】 第1回から7回のいずれかのテーマに関わる事例研究論文を書き、口頭発表する。</p> <p>【キーワード】 事例研究論文、口頭発表</p> <p>【学習の課題】 第1回から7回のいずれかのテーマに関わる事例研究論文作成、口頭発表・ディスカッション。</p> <p>【参考文献】 資料を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
9. テーマ	オリエンテーション、学生発表割り振り。精神分析理論の背景となる理論について学ぶ。(田代) (伊東)
	<p>【学習の目標】 ソーシャルワークの背景になる精神分析論の理論・技術の構成 (前提、主要概念等)などを習得する。</p> <p>【学習の内容】 精神分析理論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などについて習得する。精神分析論を実際に活用する。</p> <p>【キーワード】 人間の精神の構成、不安、防御規制、転移の分析、自我の構造、生活ストレス</p> <p>【学習の課題】 習得した精神分析論の知識を、実際に個人に介入する時、あるいは現場の実践で活用できるようになる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
10. テーマ	エコロジカル理論にもとづくソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践方法を学習する。事例発表・検討(田代) (伊東)
	<p>【学習の目標】 エコロジカル理論の理論・技術の構成 (前提、主要概念等)などを習得する。</p> <p>【学習の内容】 エコロジカル理論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などについて習得する。エコロジカル理論を実際に活用する。</p> <p>【キーワード】 環境、エコロジカル SW・パースペクティブ、ジェノグラム、エコマップ</p> <p>【学習の課題】 習得したエコロジカル理論の知識を、実際に個人に介入する時、あるいは現場の実践で活用できるようになる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
11. テーマ	行動理論にもとづくソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践方法を学習する。事例発表・検討(田代) (伊東)
	<p>【学習の目標】 行動理論の理論・技術の構成 (前提、主要概念等)などを習得する。</p> <p>【学習の内容】 行動理論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などについて習得する。行動理論を実際に活用する。</p> <p>【キーワード】 行動主義、学習心理学、レスポデント・オペラント条件付け、ABCアプローチ、シェイピング、モデリング</p> <p>【学習の課題】 習得した行動理論の知識を、実際に個人に介入する時、あるいは現場の実践で活用できるようになる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
12. テーマ	認知理論にもとづくソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践方法を学習する。事例発表・検討(田代) (伊東)
	<p>【学習の目標】 認知の理論・技術の構成 (前提、主要概念等)などを習得する。</p> <p>【学習の内容】 認知理論の主な概念・理論の前提・主な介入技法などについて習得する。認知理論を実際に活用する。</p> <p>【キーワード】 エリス ABC 理論、自動思考、論理療法、DRDT</p> <p>【学習の課題】 習得した認知理論の知識を、実際に個人に介入する時、あるいは現場の実践で活用できるようになる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
13. テーマ	グループにもとづくソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践方法を学習する。事例発表・検討(田代) (伊東)
	<p>【学習の目標】 グループを対象とした理論・技術の構成 (前提、主要概念等)などを習得する。</p> <p>【学習の内容】 グループを対象としたソーシャルワーク実践、システム論の主な概念・理論の前提や特徴・主な介入技法などについて学習する。</p> <p>【キーワード】 SST、社会生活力プログラム、システムの構造・機能・行動、境界、開放と閉鎖的システムなど</p> <p>【学習の課題】 代表理論、そして、実践への適用における長所と短所が比較できる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジュメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>
14. テーマ	コミュニティを対象にしたソーシャルワーク実践の背景となる理論や実践手法を学ぶ。事例発表・検討(田代) (伊東)
	<p>【学習の目標】 コミュニティを対象とした多様な理論や知識を習得する。</p> <p>【学習の内容】 地域の住民・グループ・組織の特徴、コミュニティワークの主な介入技法などについて学習する。</p> <p>【キーワード】 エンパワメント、ストレングス、イネープリング、インターグループワーク、ソーシャルアクション</p>

<p>【学習の課題】 コミュニティのアセスメント・介入方法について理解し、実践できる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>	
<p>15. テーマ</p>	<p>災害支援のソーシャルワークの考え方と方法について学ぶ。 事例発表・検討(田代)(伊東)</p>
<p>【学習の目標】 災害支援のソーシャルワークの現状と災害後の生活課題に対しての支援方法について習得する。</p> <p>【学習の内容】 危機介入アプローチ、災害初期対応から始まる支援活動の展開、支援者・ボランティアに対してのフォローアップ・スーパーバイズの技術・理論を駆使して災害支援、対人援助・生活支援について学習する。</p> <p>【キーワード】 危機介入アプローチ、災害時要援護者、Disaster Medical Assistance Team(DMAT)、ボランティアコーディネート、</p> <p>【学習の課題】 災害時とその後の生活支援に対するソーシャルワークの実践について理解し、実践をすることができる。</p> <p>【参考文献】 資料・事例を配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各授業の発表学生を分担する。担当の学生は配布資料(レジメ)を作成し、人数分用意し発表の準備すること。</p>	